

だんだんイノベーションラボ

(外部人材等活用イノベーション促進事業)

令和7年度実施報告書



だんだんイノベーションラボは、松山市内企業と都市部等の高度な技術やスキルを有する人材やスタートアップ企業等とのマッチングを支援し、新しいアイデアや高度な技術による新事業の創出につなげるプロジェクトです。

本プロジェクトのキーワードは

協働と共創





だんだん複業団

令和2年度～令和6年度

人手・人材不足に悩む松山市内企業と複業等を通じて自らのスキル・経験を生かしたい都市部人材のマッチングを支援するプロジェクト。



だんだんイノベーションラボ

令和7年度～

松山市内企業と都市部等の高度な技術やスキルを有する人材やスタートアップ企業等とのマッチングを支援し、新しいアイデアや高度な技術による新事業の創出につなげるプロジェクト。

だんだん複業団

松山市内企業と複業人材（※1）の「共感」を重視した**マッチングを支援**すること。



企業と人材の1対1をベースとした複業マッチングによる**企業課題の解決**。



企業個社へのインパクト（売上アップ、販路拡大、認知向上など）

（※1）複業人材＝会社員やフリーランス・個人事業主等の個人

だんだんイノベーションラボ

松山市内企業と外部人材（※2）の「協働」と「共創」による**新事業創出を支援**すること。

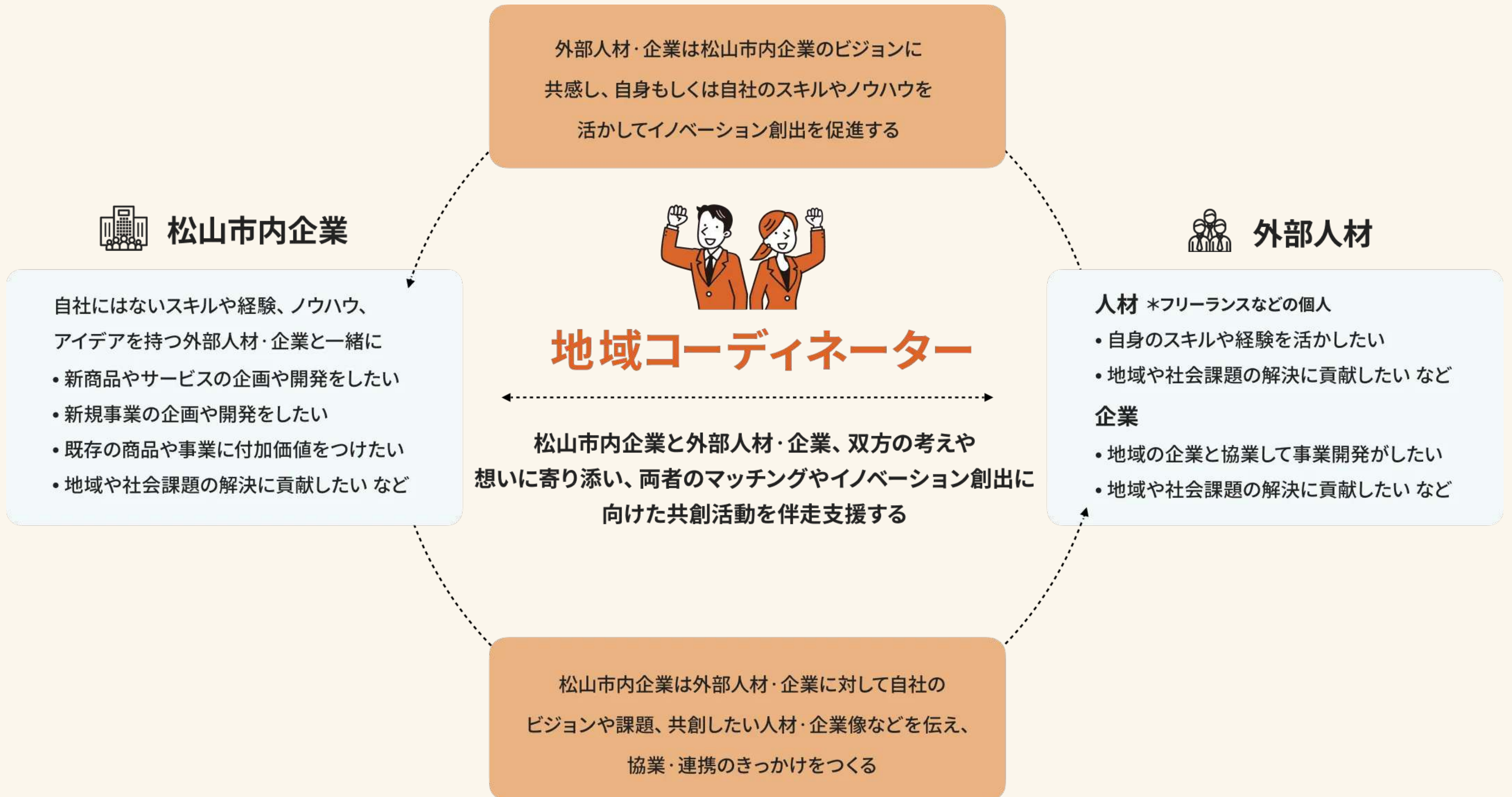


企業と外部人材の1対nをベースとした協働・共創による**新たな価値の創出**。



企業個社へのインパクト＋**地域社会へのインパクト**（地域経済の活性化、コミュニティの形成、生活の質の向上など）

（※2）外部人材＝会社員やフリーランス・個人事業主等の個人＋事業開発等を目的にした企業



今年度事業のスケジュール

募集フェーズ

8月

市内企業の参加募集 9/2まで

市内企業向けセミナー

日時 8/26(火)18:00-20:00

場所 テックアイエス(松山市内)

9月

ヒアリング・事業参加確定 9/9まで

外部人材・企業向け説明会

日時 9/25(木)18:00-20:00

場所 オンライン(zoomウェビナー)

外部人材・企業向け個別説明会

日時 ① 9/26(金)12:10~12:50
② 9/26(金)19:10~19:50

場所 オンライン(zoomミーティング)

外部人材・企業の参加募集 9/9まで

交流フェーズ

10月

① チェックイン@オンライン

日時 10/7(火)・8(水) 両日とも
16:00~21:00の間の
2時間程度で、参加企業から
プレゼンを行います。

② 意見交換会@オンライン

日時 10/22(火)・23(水) 両日とも
16:00~21:00の間の
2時間程度で、外部人材・
企業との交流を行います。

11月

③ フィールドワーク@松山市内

日時 日時:11/6(木)~7(金)と
13(木)~14(金)の1泊2日を
2回開催で、外部人材・企業と
交流を行います。

④ チェックアウト@オンライン

日時 11/11(火)・12(水)・18(火)・19(水)
4日間とも16:00~21:00の間の
2時間程度で、外部人材・企業と
取組内容を固めていきます。

マッチングフェーズ

12月

⑤ マッチング(提案・面談等)

日時 チェックアウト後~12/25(木)まで
の期間で、本格的な事業構想・
開発等を一緒に行う外部人材・
企業とのマッチングを
目指していきます。

共創フェーズ

1月

マッチングした外部人材・企業との共創活動 3/6まで

期間内でおよそ3回程度の打ち合わせを設定し、本格的な事業構想・開発等を進めます。
その際、地域コーディネーターが共創活動の伴走支援を行います。

2月

3月

事業成果報告会

日時 3/11(水)18:00-20:00

場所 オンライン(zoomウェビナー)

事業内・マッチング後の取り組み成果を
広く発信・普及します。

事業構想プログラム

市内企業と外部人材による**交流・対話**を軸に事業構想（ビジネスの目的・理念・ターゲット・提供価値など「設計図」を描いていくこと）を主にしたプログラム。

交流フェーズ（2025年10月～11月）

計4回の交流の場で多様な視点でアイデアを出し合っていく。

マッチングフェーズ（2025年12月）

市内企業と外部人材によるプロジェクトチームを結成する。

共創フェーズ（2026年1月～3月）

交流・マッチングフェーズで出たアイデアを具現化していく。

事業開発プログラム

市内企業と外部人材による**実行・実装**を軸に事業開発（事業の価値向上や市場・顧客への落とし込みなど「事業化」を推進すること）を主にしたプログラム。

マッチングフェーズ（2025年12月）

市内企業と外部人材によるプロジェクトチームを結成する。

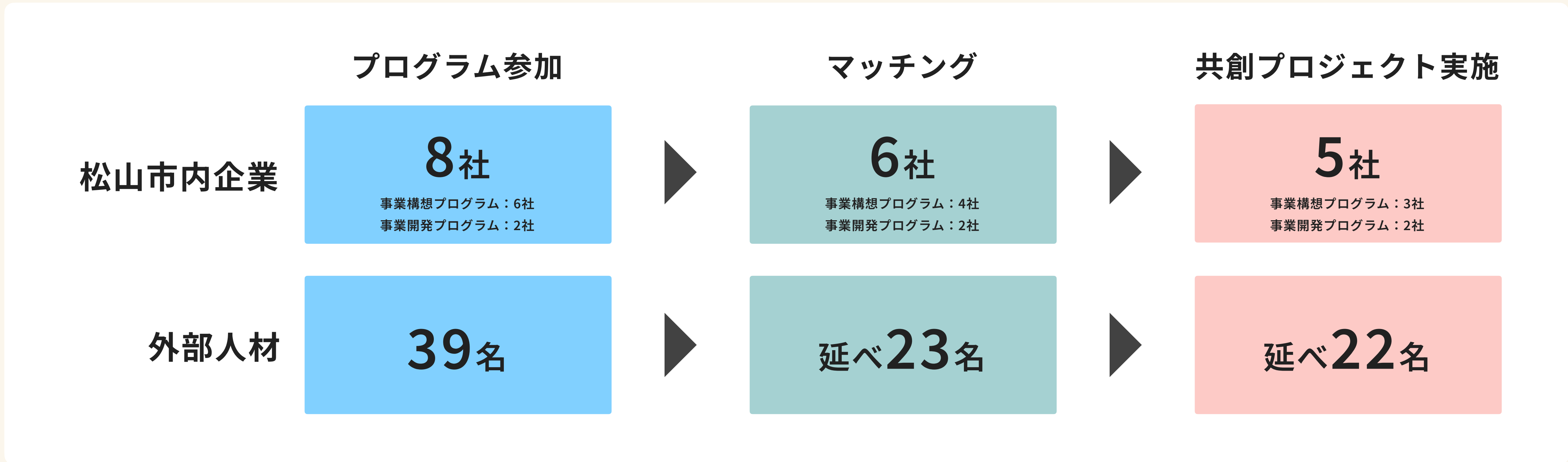
共創フェーズ（2026年1月～3月）

キックオフ（オンライン）→フィールドワーク（松山）→共創ワーク×3回（オンライン）の計5回+αのプロセスで成果物を創出していく。

*両プログラムとも、各フェーズで地域コーディネーターが市内企業と外部人材の間に入って伴走支援を行い、進行をサポートする体制を構築。

*共創フェーズ時の外部人材の報酬については、事業構想プログラムはマッチング時に有無を取り決め、事業開発プログラムは原則プロボノ活動。

今年度事業の成果（定量面）



- * マッチングに至らなかった松山市内企業2社（事業構想プログラム）は、交流フェーズを終えたタイミングで、他事業への集中を理由に外部人材とのプロジェクト実施を断念した。
- * プロジェクト実施に至らなかった松山市内企業1社（事業構想プログラム）は、マッチングした外部人材が1名となり、自社内でプロジェクトを行う流れとなった。
- * 事業構想プログラムでマッチングした外部人材は全員がフィールドワークに参加（参加していない外部人材のマッチングは0人）しており、リアルでの交流のまま協働・共創が生まれる結果となった。

- (1) 地域コーディネーターを3名体制にしたことで、多種多様な松山市内企業が集まった。
- (2) 松山市内企業と外部人材が相互理解と信頼関係を構築する「交流」期、プロジェクトのゴールや役割をすり合わせる「マッチング」期、成果創出に向けた「共創」期、それら一連のプロセスを地域コーディネーターが伴走支援するという仕組みが事業1年目で実装できた。
- (3) 松山市内企業にとっては、普段出会えない専門性を持つ外部人材との協働・共創だからこそのアイデアや企画案が随所に生まれた。また、外部人材という第3者的視点が入ることで、自社の事業価値を客観的に評価してもらった貴重な機会になったという声があった。
- (4) 共創プロジェクトを実施した5社全てに、前年度までのだんだん複業団に参加した外部人材と、今年度のだんだんイノベーションラボより参加した外部人材が融合するチーム編成となった。
- (5) 各プロジェクトにおいて、AIツールを外部人材が主体的に活用したことで、松山市内企業にもAI活用が広まるとともに、プロジェクト自体の効率化と活性化が図られた。

プロジェクト区分

- ①新しい価値として再編集（ブランド・ストーリー）
- ②企業変革（業態転換・多角化など）
- ③場・仕組みをつくる（コミュニティ・協業など）

外部人材への期待

- ①ストーリーづくりから顧客との接点づくりまでを一気通貫でやりたい
- ②松山発でスタートし、愛媛・四国・全国と広めていく事業にしたい
- ③自分たちの価値観や哲学の共有・共感を前提に協働・共創したい

スキル・経験区分

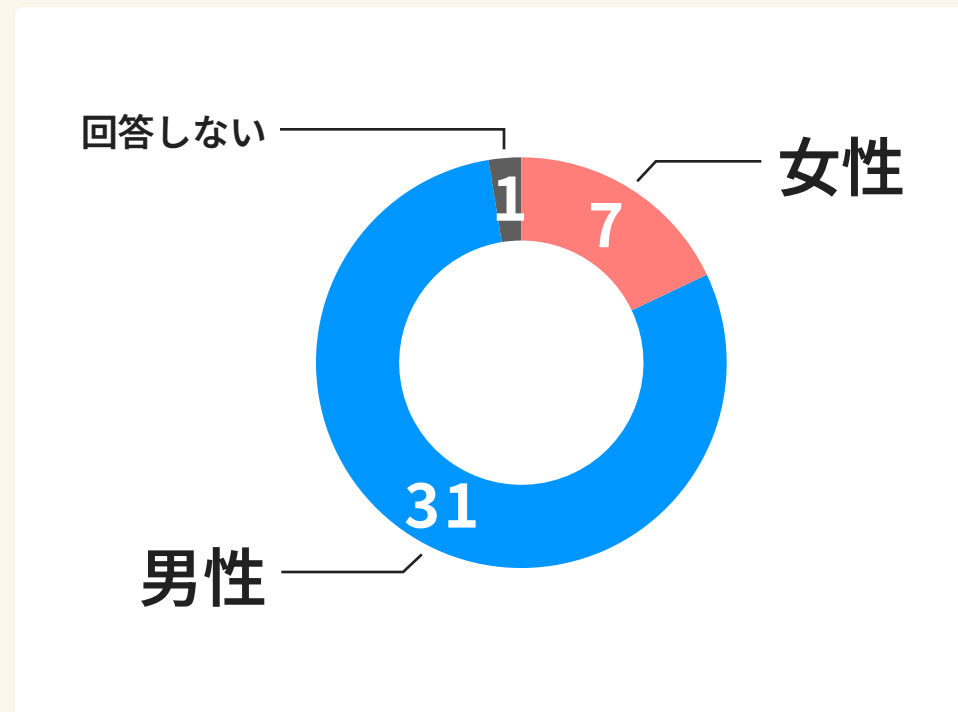
- ① 価値設計：ブランディング・ビジョン・デザインなど
- ② コミュニケーション設計：マーケティング・販促・広報など
- ③ 0→1設計：事業開発・経営コンサル・PMなど
- ④ 教育・制度設計：組織開発・人材開発・人材育成など
- ⑤ オペレーション設計：DX・データ・業務改善・生産性など

松山市内企業 への期待

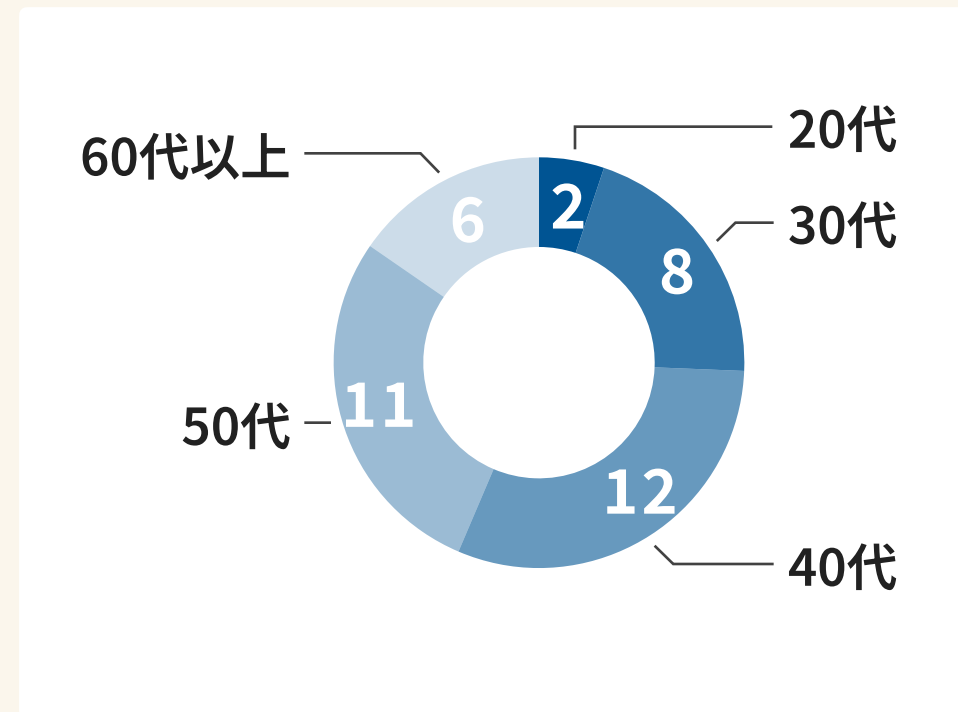
- ① 伴走支援型で、外注関係ではなく社内に入り込んで一緒にやりたい
- ② アウトプット志向型で、成果物・ローンチ・数値を明確にしてやりたい
- ③ 小さく始める型で、仮説検証・失敗リスク低減を重視してやりたい

今年度事業に参加した外部人材の属性

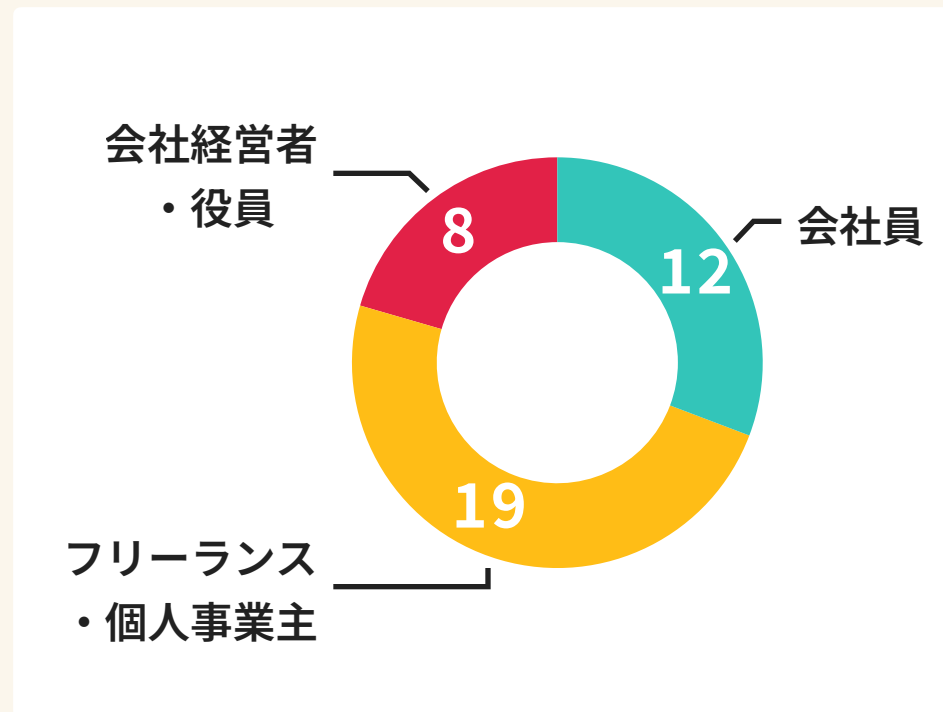
性別



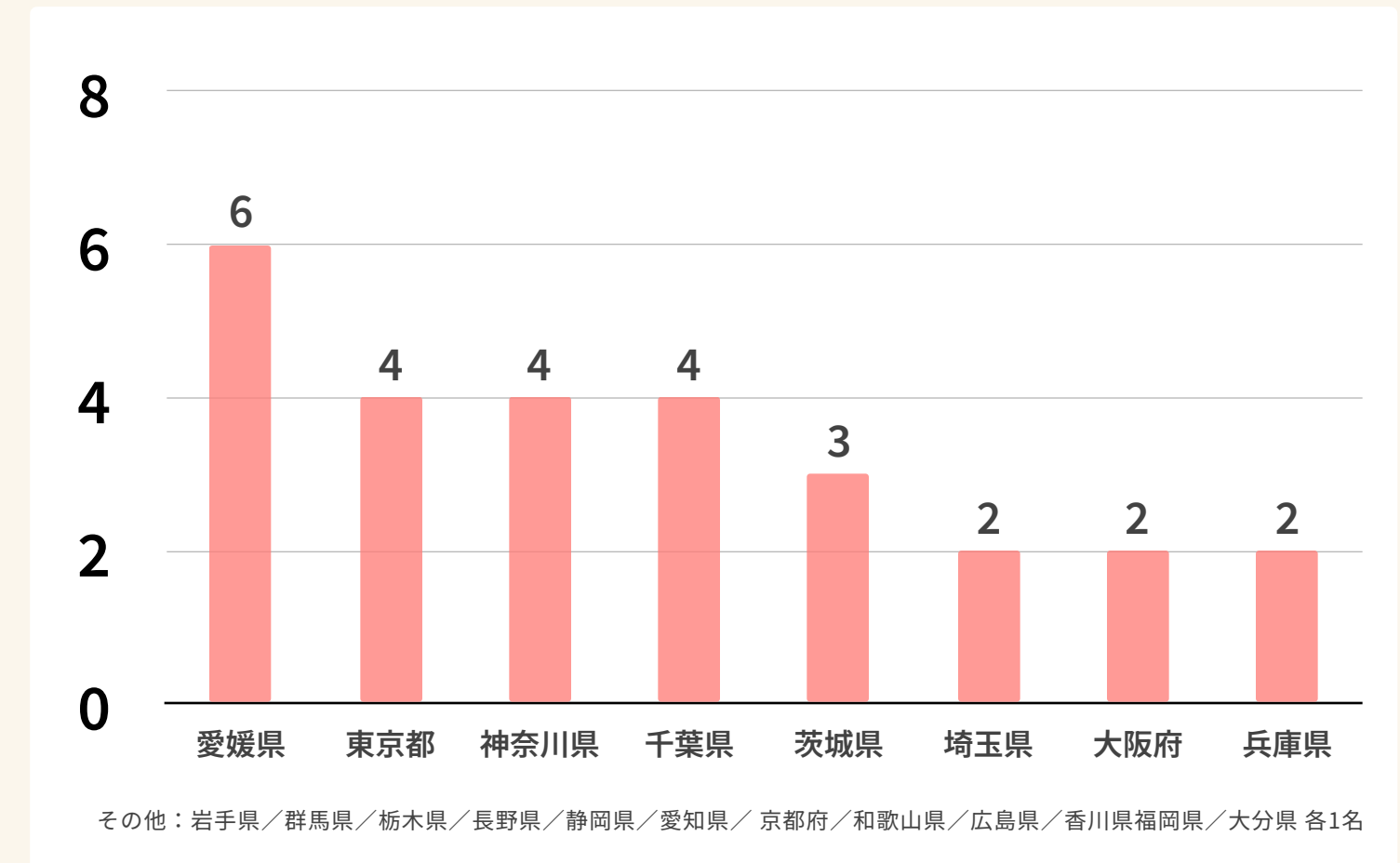
年代



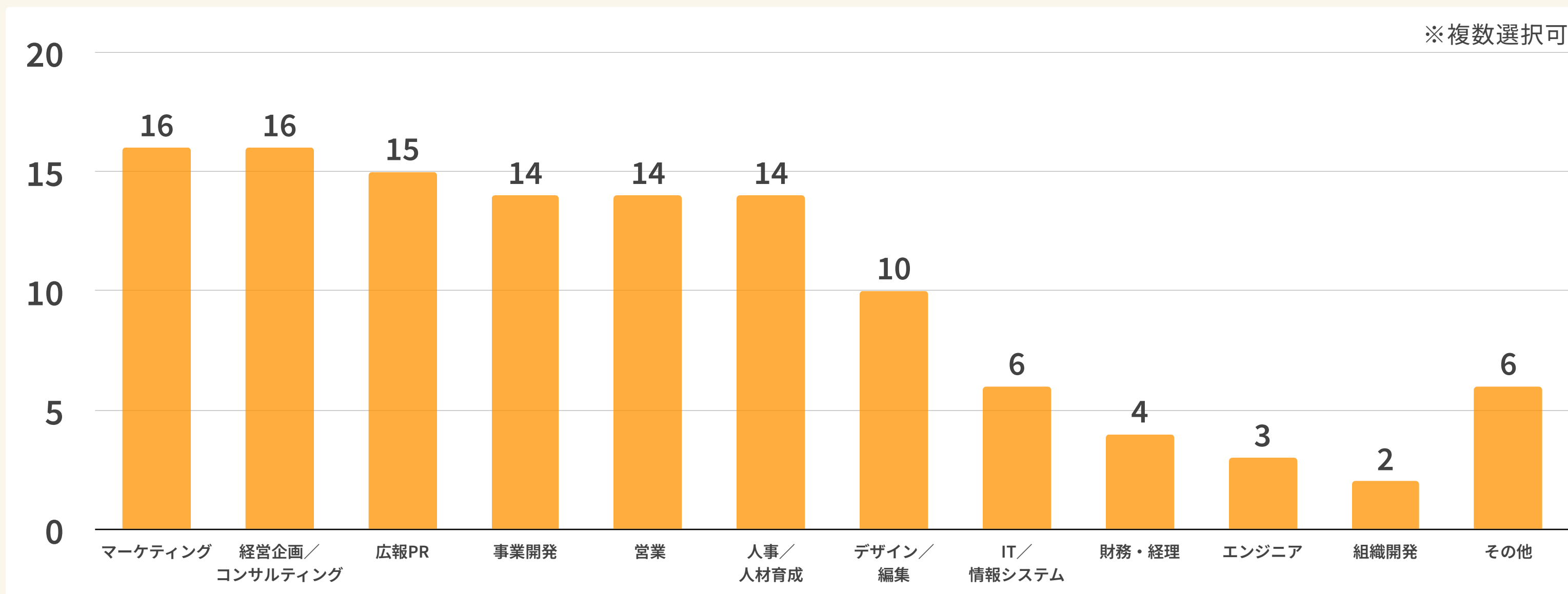
所属



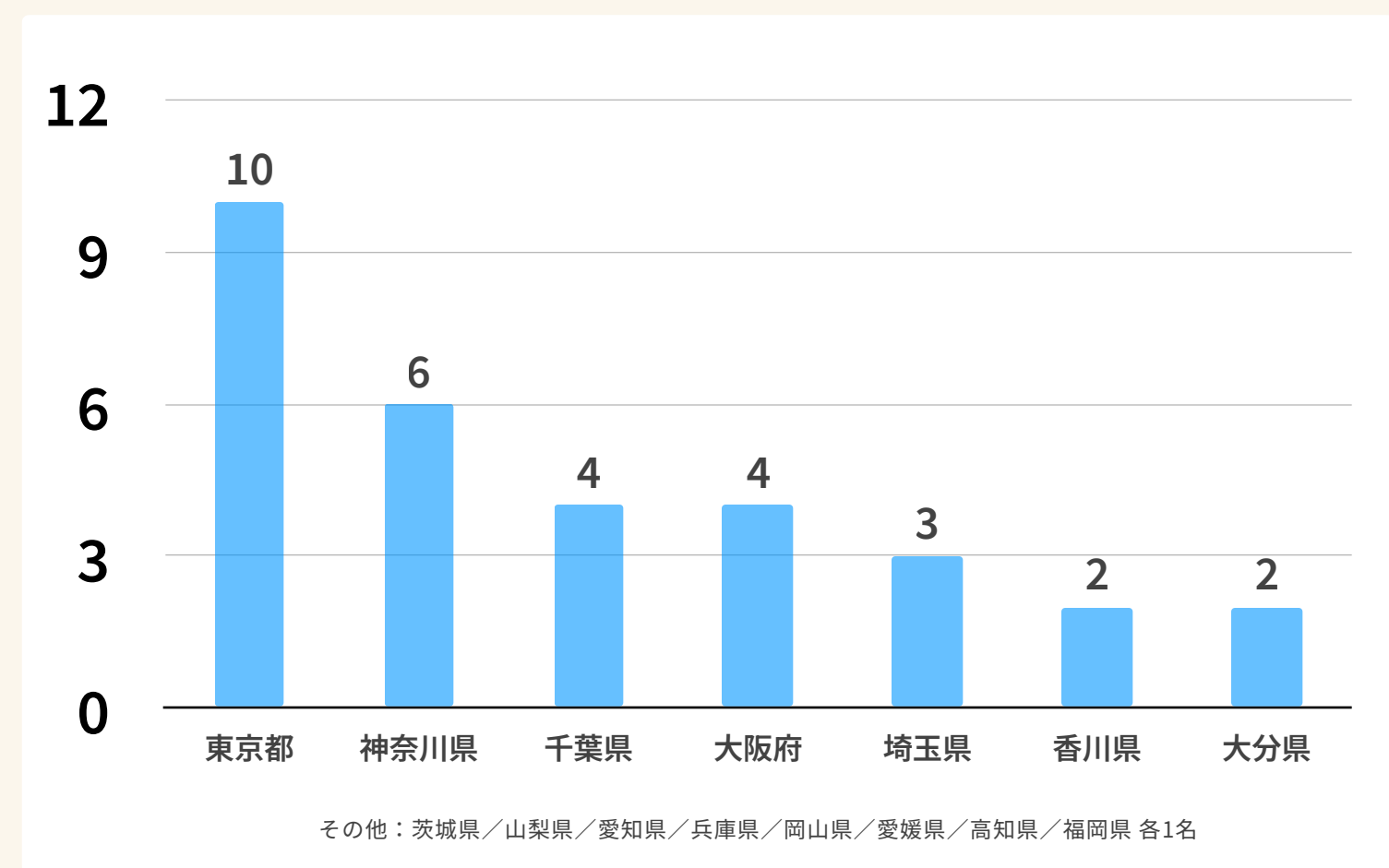
出身地（都道府県）



経験職種



居住地（都道府県）



N=39

①松山市内企業の新事業創出におけるゴールや求める外部人材を具体化すること

＜今年度の主な課題＞

プログラムに参画した外部人材より、新事業創出の背景や課題、ゴール、成果物が曖昧で、自身の能力を発揮することより、それらを整理することに時間を費やしてしまったという声があった。

②外部人材のスキル・経験値が新事業創出にどう貢献できるかを可視化すること

＜今年度の主な課題＞

プログラムに参画した松山市内企業より、外部人材は何ができて、どのように自社に関わりたいのか、交流期間で把握することができず、共創期間が手探り状態になってしまったという声があった。

③オープンイノベーション×リーンスタートアップ型のプログラムを開発すること

＜今年度の主な課題＞

今年度は松山市内企業・外部人材・地域コーディネート機関など多様な人たちが交わるプログラムを重視したが、結果的にスピード感や実行力の欠如が見られ、短期間での成果が見えづらかった。

④新事業創出に対して人的支援だけでなく面的に支援する仕組みを設計すること

＜今年度の主な課題＞

今年度は市内企業に対して外部人材のマッチング支援と地域コーディネート機関による伴走支援という人的支援を行ったが、結果、プログラム後のプロジェクト継続が不明確な状態になっている。